



電子部品メーカーが挑む持続可能な社会への貢献

SMK株式会社 代表取締役社長 池田 靖光

CREATIVE CONNECTIVITY

—Challenge, Creativity, Solutions

2023年10月1日

1. 弊社紹介
2. 弊社の製品・サービスによる社会貢献への取り組み
3. 弊社のカーボンニュートラルへの取り組み
4. 環境への取り組みのリスクとチャンス
5. Q&A

SMK株式会社HP

[https://www.smk.co.jp/movie/
corporate_profile/
をご覧ください。](https://www.smk.co.jp/movie/corporate_profile/)

会社案内動画 約5分

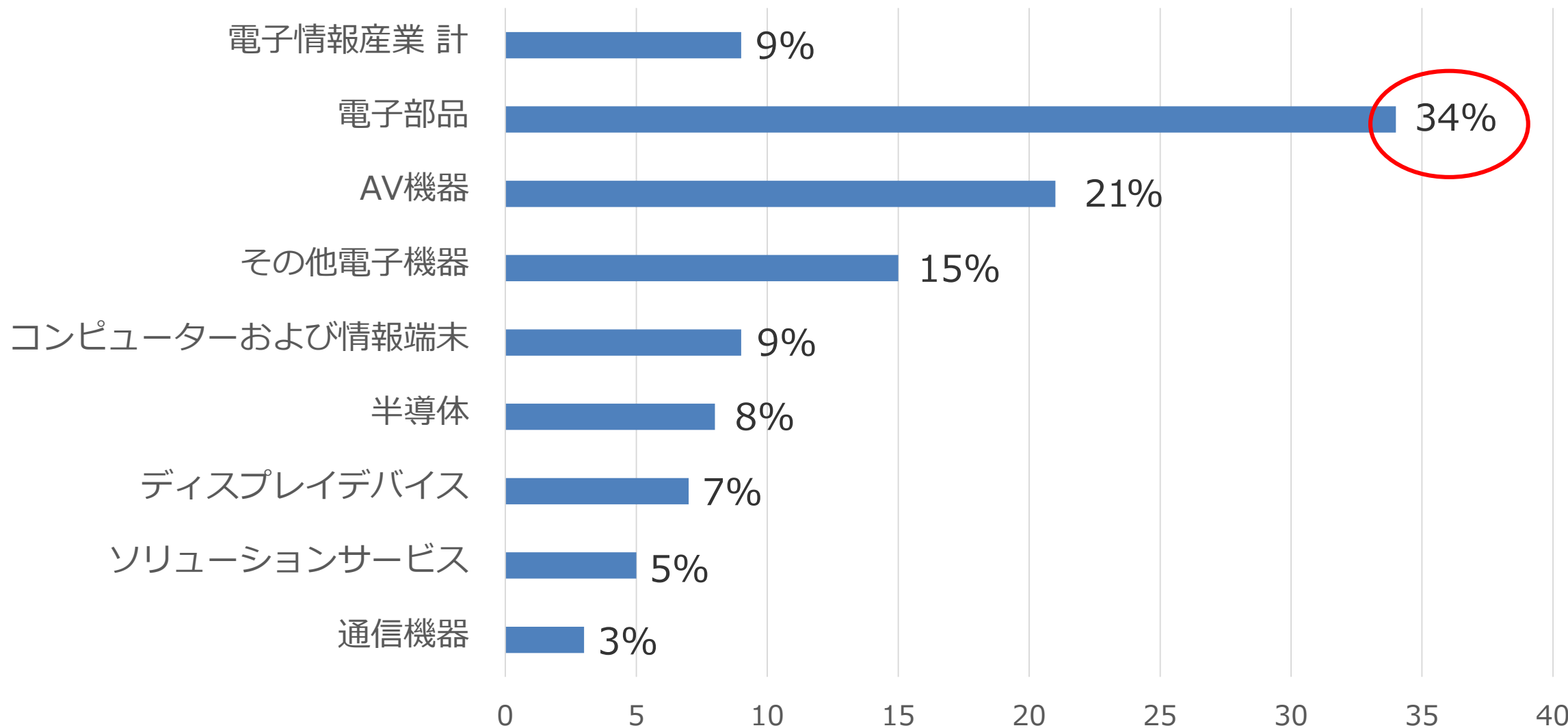
SMK企業理念（1984年制定）

SMKは可能性の追求を通して総合的な高度技術により、
情報社会の発展に寄与する。

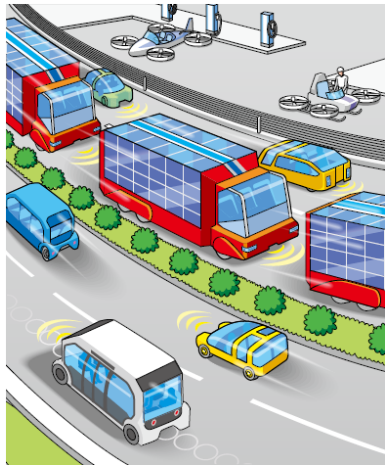
SMK環境憲章（1995年制定）

SMKは良き企業市民として社員一人ひとりが地球的規模で
持続的発展が可能な社会に寄与するという自覚を持ち、総合的
な高度技術により経済発展と環境保全の両立に努めます。

世界生産額に占める分野別 日系企業のシェア（2022年見込み）



①EV・自動運転（運輸・交通）



世界需要額
2020年 2030年
23.3兆円 ⇒ 98.3兆円
平均 +15.5%

CO₂削減ポテンシャル
18.1億 t- CO₂
(2030年)



③エネルギーマネジメント

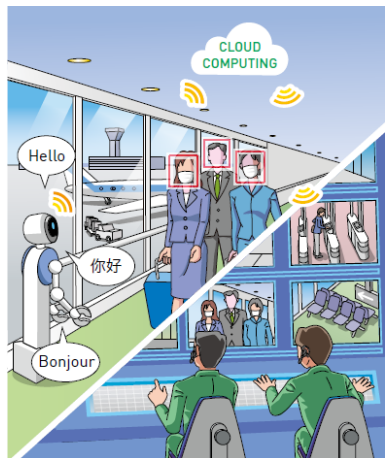


世界需要額
2020年 2030年
7.8兆円 ⇒ 29.8兆円
平均 +14.3%

CO₂削減ポテンシャル
8.2億 t- CO₂
(2030年)



②ITリモート（情報通信）



世界需要額
2020年 2030年
48.2兆円 ⇒ 176.9兆円
平均 +13.9%

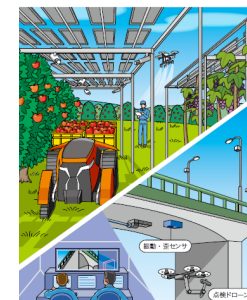
CO₂削減ポテンシャル
22.2億 t- CO₂
(2030年)



④スマート農林業・⑤社会インフラモニタリング

世界需要額

	2020年	2030年	平均
スマート農林業	3.2兆円	15.8兆円	+17.5%
社会インフラモニタリング	4.3兆円	14.0兆円	+12.4%

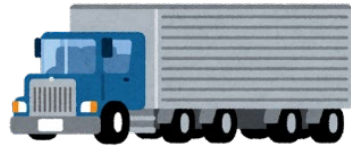


CO₂削減ポテンシャル
7.4億 t- CO₂

スマート農林業 : 6.7億 t- CO₂
社会インフラモニタリング : 0.7億 t- CO₂
(2030年)



◆ カメラモジュール&カメラコネクタ



★センシングカメラ
★ビューイングカメラ

★サラウンドビュー



★ドライブレコーダー



★リアビューカメラ

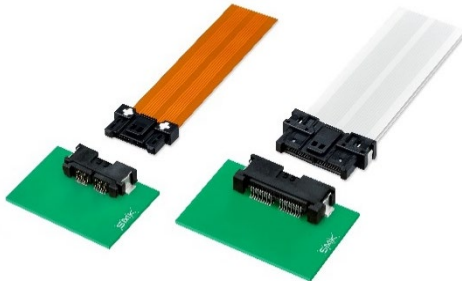


◆ EV向けキーシステム

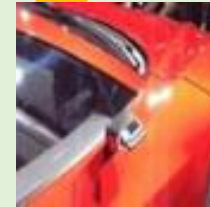


★EVバッテリー (BMS)

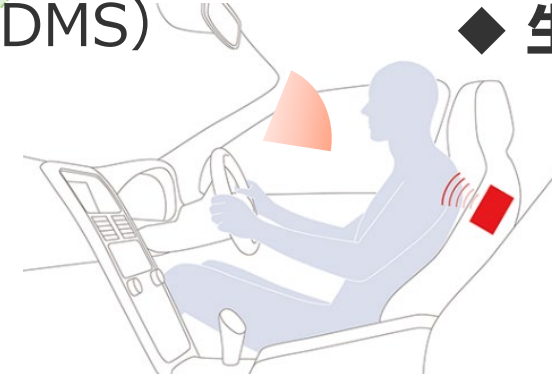
◆ ロック付きFPC/FFCコネクタ



◆ 車室内監視カメラ (DMS)



★電子ミラー



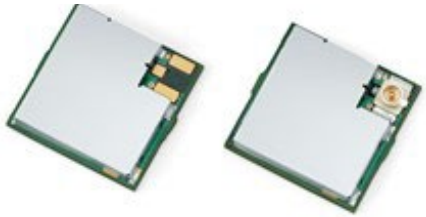
◆ 生体センサー



製品イメージ

★照明機器の管理

◆ Sub-GHz通信モジュール



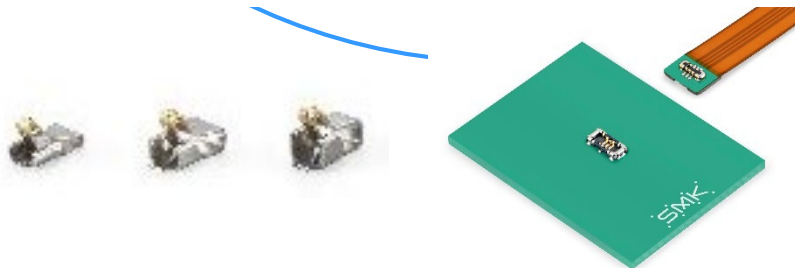
★転倒検知

◆ UWB方式見守りセンサー



★スマートフォン・タブレット

◆ モバイル機器向けコネクタ、スイッチ

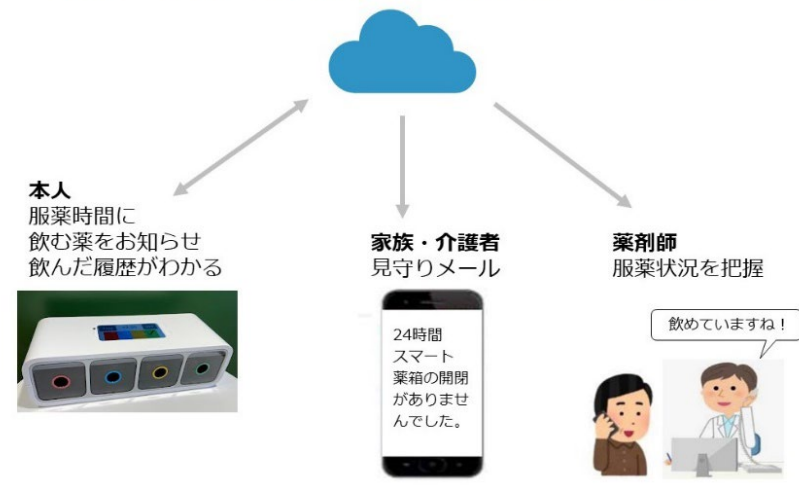


★高齢者見守り支援

◆ スマート薬箱



本人・家族・薬剤師に優しいスマート薬箱®



◆ 環境センサーユニット



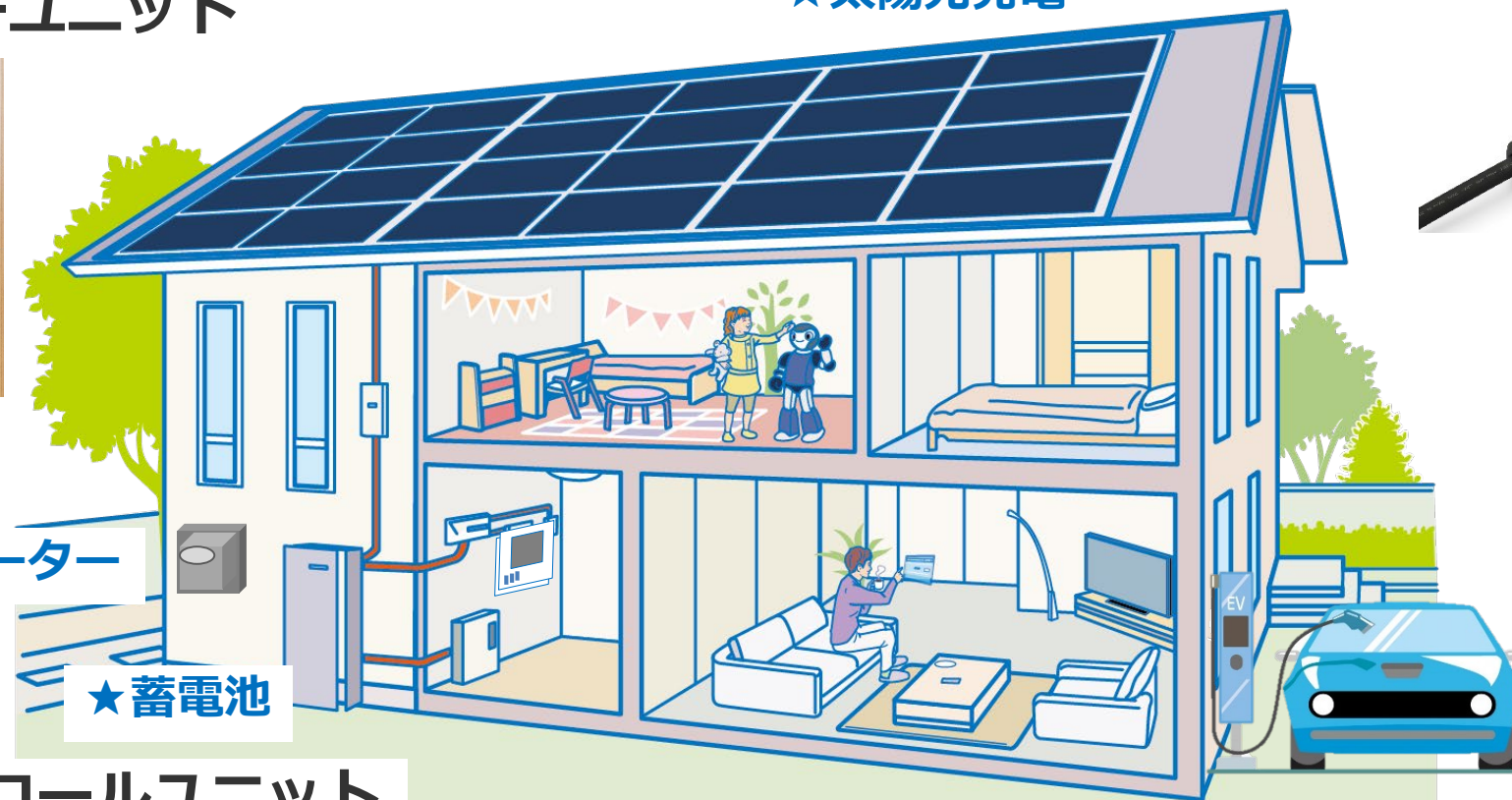
★太陽光発電

◆ 太陽電池モジュール用コネクタ

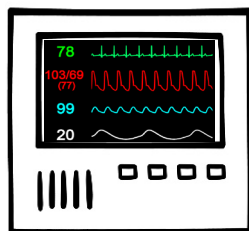


★スマートメーター

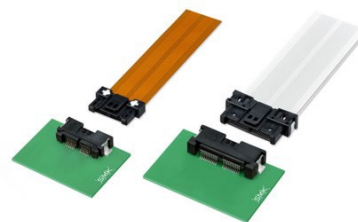
★蓄電池



◆ 蓄電池コントロールユニット

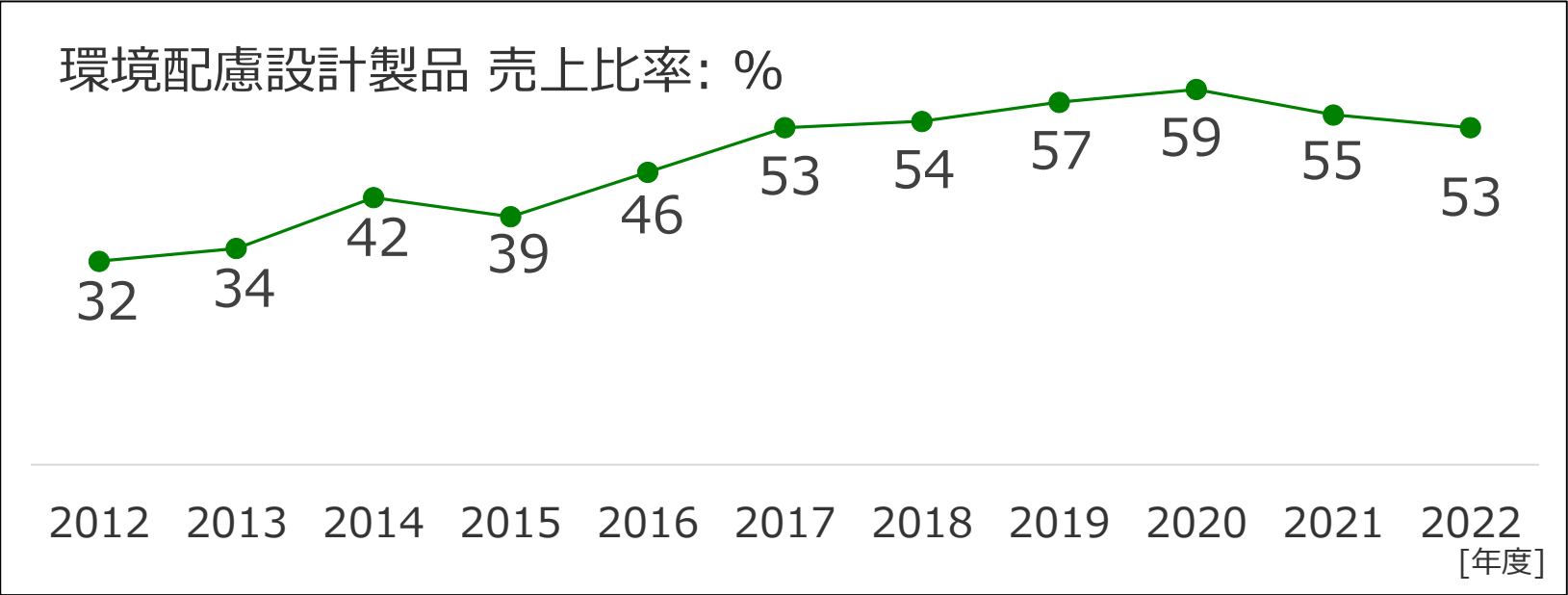


◆ ロック付きFPC/FFCコネクタ



◆ 太陽電池付きリモコン

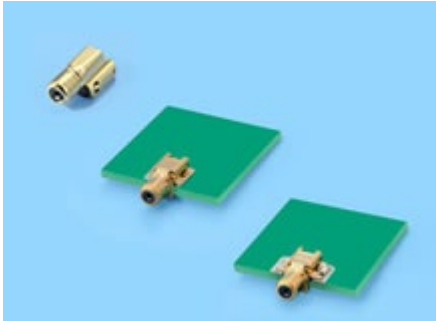




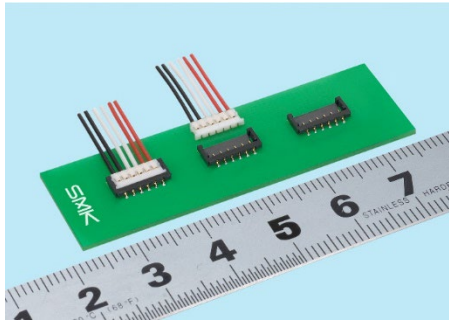
環境配慮設計製品

低炭素社会に向けた製品開発のため、環境配慮設計について社内基準を設定
4つのカテゴリーに分けて管理

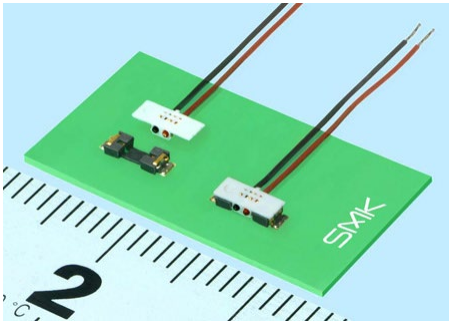
	カテゴリー	内容
①	省エネ・高効率化	消費電力・待機電力の削減や耐久性能を向上
②	省資源化	小型化・軽量化や構成部品を削減
③	環境にやさしい	リサイクル材使用、はんだレス、めっきレス、有害物質の削減（鉛、ハロゲンフリー）
④	製造工程の負荷低減	投入材料の削減、エッチングプロセスの改善



① 耐久性能向上



② 小型化による材料低減



③ 有害物質含有量削減

■ 長期目標：2045年度カーボンニュートラル実現

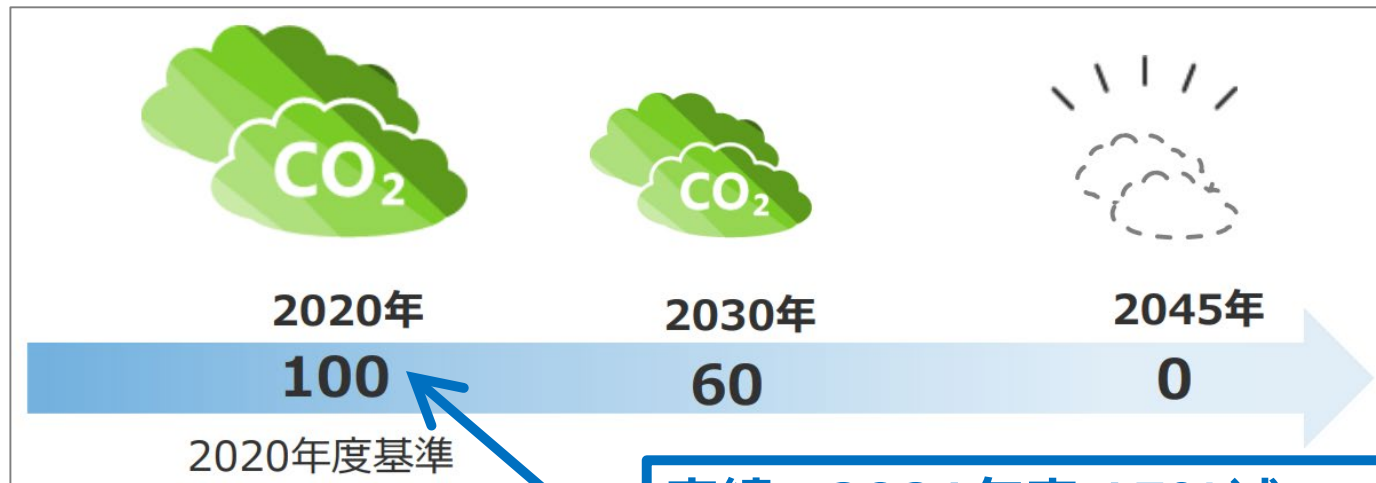
→日本の目標（2050年）よりも5年前倒しし制定

■ 中期目標：2030年度 40%減

（2020年度CO₂生産高原単位*比）

* CO₂生産高原単位 = CO₂排出量/生産高

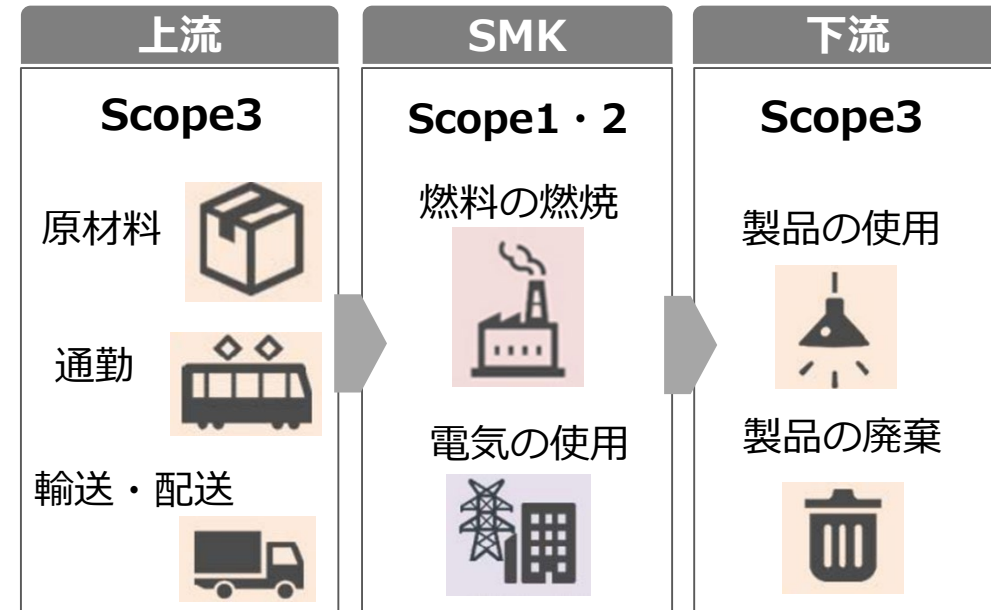
<Scope1, 2>



**実績：2021年度 15%減
2022年度 33%減
(2020年度比)**

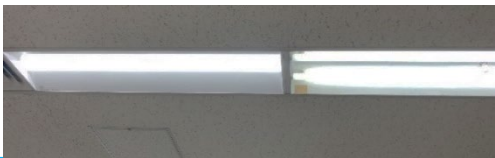
<Scope3>

目標設定は今後の課題



①省エネ	各拠点での省エネ活動の推進
②創エネ (次のステップは蓄エネ)	太陽光発電システムの導入
③調エネ	低炭素エネルギーの調達

■ 省エネ

	カテゴリー	対策内容	
①	事務所・工場	LED照明へ切替	 本社ロビー（LED照明）
		空調機更新	
		電力モニタリング	
②	生産現場	LED照明へ切替	 本社（左：LED照明、右：蛍光灯）
		空調機更新	
		電力モニタリング	
③	生産現場	コンプレッサー更新	 本社電力モニター
		省エネ生産設備へ更新	
		生産レイアウト見直し	
③	社有車	ハイブリッドカー導入	

■ 創エネ：太陽光発電導入状況

★稼働済 ☆稼働予定

	拠 点	稼働開始時期
売電	茨城県北茨城市	2014年★
	群馬県館林市	2015年★
自家消費	SMKフィリピン（小型設備）	2017年★
	富山事業所	2023年3月★
	ひたち事業所2号館	2023年2月★
	ひたち事業所1号館	2023年9月★
	SMKフィリピン	2023年9月★
	SMKメキシコ	2023年11月☆
	SMKマレーシア	2023年12月☆



富山事業所



発電量モニター

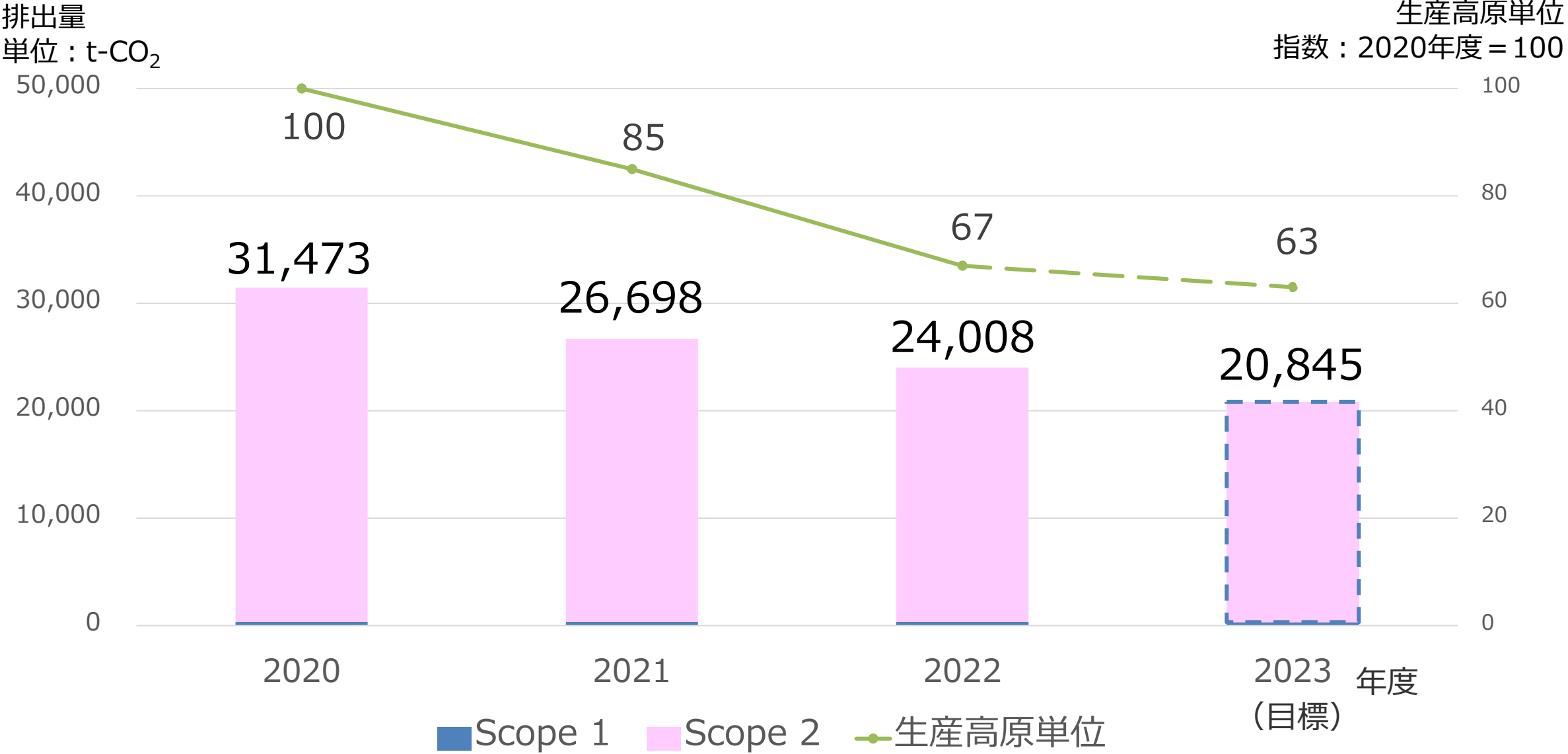


ひたち事業所



SMKフィリピン





1. グリーン調達ガイドラインの作成
2. 化学物質管理基準の制定
3. 協力会社環境監査の実施
4. 協力会社懇談会の開催



グリーン調達ガイドライン



協力会社懇談会

1. リスク

- ①設備投資や経費負担の増大
- ②低炭素エネルギー購入による電気代の増加
- ③環境関連規制、顧客要求の強化・変更への対応

2. チャンス

- ①自家発電によるCO₂排出量 及び 電気代の削減
- ②自家発電による事業継続力の強化
- ③新しい製品・サービスの開発、提供によるビジネス拡大

■ フィリピン工場での排水再利用

製造工程からの排水を、製造工程内・トイレ・消火栓用水として再利用



フィリピン工場

■ 子供向け「環境ものづくり教室」の実施

ものづくり教室で環境教育を実施（エコルとごし、SMK共催）



環境ものづくり教室

■ 伊師浜海岸/磯原海岸清掃活動

海岸に漂着するプラスチックごみ削減への一環として清掃活動を実施（日立市/北茨城市主催）



海岸清掃活動

■ Mizuho Eco Finance契約締結

みずほ銀行の定める環境評価基準を満たし、融資契約を締結（締結日：2023年9月29日）



ご清聴ありがとうございました。